

令和 2 年 1 月 1 6 日

枚方寝屋川消防組合

平成 3 1 年 / 令和元年消防統計

本消防組合における、平成 3 1 年 / 令和元年（1 月から 1 2 月まで）の消防統計の速報値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

1 119 番通報について（※交野市を含む）

枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センター全体の 119 番通報件数は 6 6, 2 6 2 件で、大阪府北部地震や台風の影響があった前年（6 7, 8 9 6 件）より 1, 6 3 4 件減少しました。

2 火災について

火災件数は 1 6 7 件（枚方市 1 0 0 件、寝屋川市 6 7 件）で、前年（1 8 5 件）より 1 8 件減少しました。

火災による死者は 5 人（枚方市 2 人、寝屋川市 3 人）で、前年と同数でした。

3 救急について

救急出動件数は 3 7, 9 2 7 件で、前年（3 7, 7 5 1 件）より 1 7 6 件増加、救急搬送人員は 3 4, 2 0 7 人で、前年（3 3, 7 9 0 人）より 4 1 7 人増加し、いずれも過去最多となりました。

4 救助について

救助事故件数は 2 5 9 件で、大阪府北部地震や台風の影響があった前年（3 3 6 件）より 7 7 件減少しています。

※ 詳細については別添のとおりです。



【問い合わせ先】

枚方寝屋川消防組合

情報指令課 TEL 072-852-9806

警防課 TEL 072-852-9917

救急課 TEL 072-852-9918

総務管理課（広報） TEL 072-852-9903

119番通報の主な特徴

1 119番通報は約1,500件減少

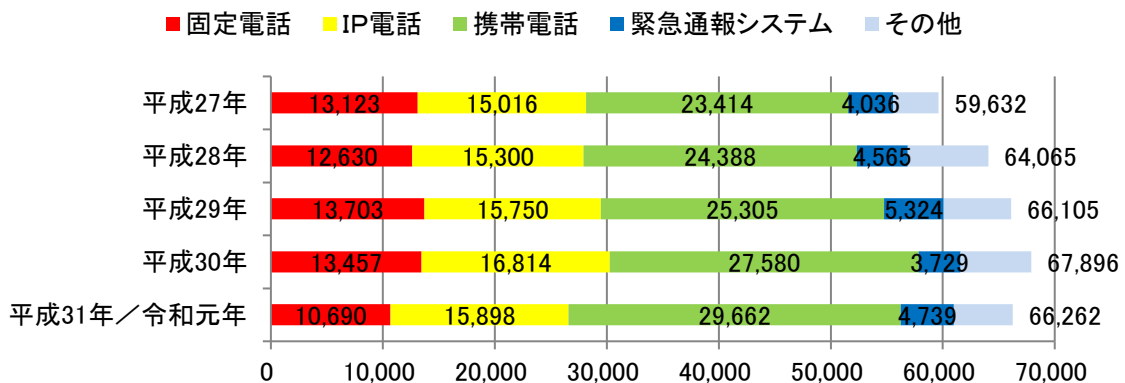
平成31年／令和元年の問い合わせ等を含めた119番通報は61,085件で、前年(62,634件)より1,549件減少しました。

これは、枚方市・寝屋川市の市民の約10人に1人が119番通報をしたこととなります。

また、指令業務を共同運用している交野市からの通報は5,177件で、枚方寝屋川消防組合・交野市消防指令センター全体では66,262件(1日平均約182件)となり、大阪府北部地震や台風の影響があった前年(67,896件)より1,634件減少しました。

※ 平成27年7月から、枚方寝屋川消防組合と交野市消防本部において消防指令業務の共同運用を行っています。

回線別の受信件数の構成比の5年ごとの推移



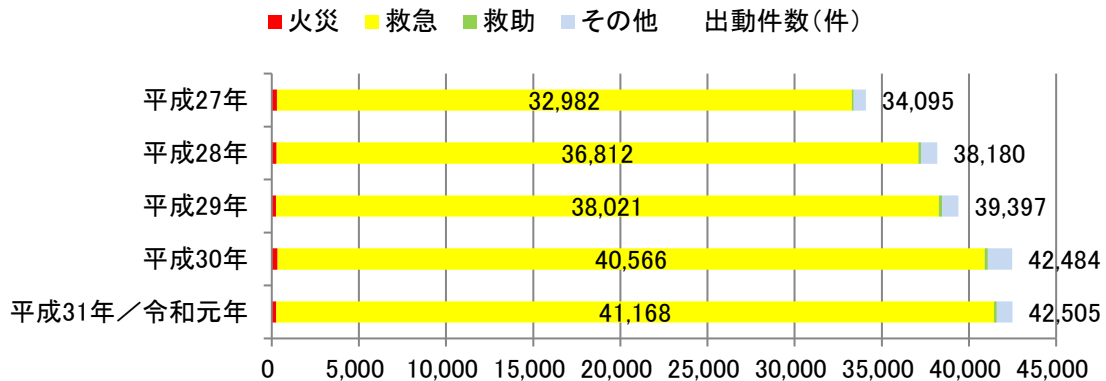
2 119番通報のうち約6割が救急関係 ※交野市を含む

119番通報のうち、災害事案に関する通報は42,505件で、前年(42,484件)より21件増加しています。

「救急関係」の通報が増加しており、41,168件で通報全体の約6割を占めています。

また、「各種問い合わせ」、「悪戯」、「間違い」などの緊急性のない通報が23,102件、他市の通報を転送したものが655件となっています。

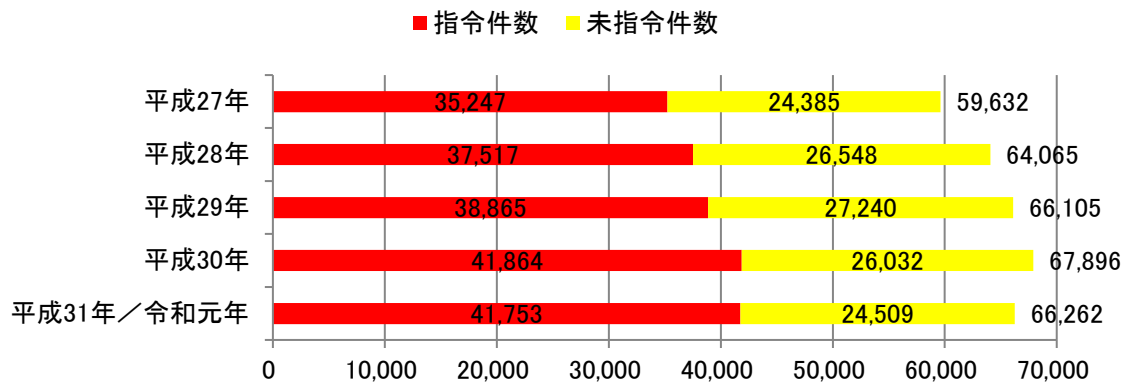
119番通報（災害事案）の構成比の5年ごとの推移



3 出動指令を出した事案は全体の約6割 ※交野市を含む

119番通報に対して実際に出動指令を出した事案は41,753件で、通報件数に対する割合は約6割となっており、前年（41,864件）より111件減少しています。

出動指令件数と未指令件数の構成比の5年ごとの推移



4 救急車が到着するまでの間の応急手当を口頭で指導

救命率向上のために、救急車が到着するまでの間、通報者から傷病者の状態を聴取し、心肺蘇生法などを口頭で指導しています。

平成31年/令和元年の指令センターからの口頭指導の件数は343件で、そのうち「心肺蘇生（胸骨圧迫、人工呼吸）」325件（「AED」27件を含む）、「その他（異物除去、止血法、熱傷手当等）」76件となっています。（重複あり。）

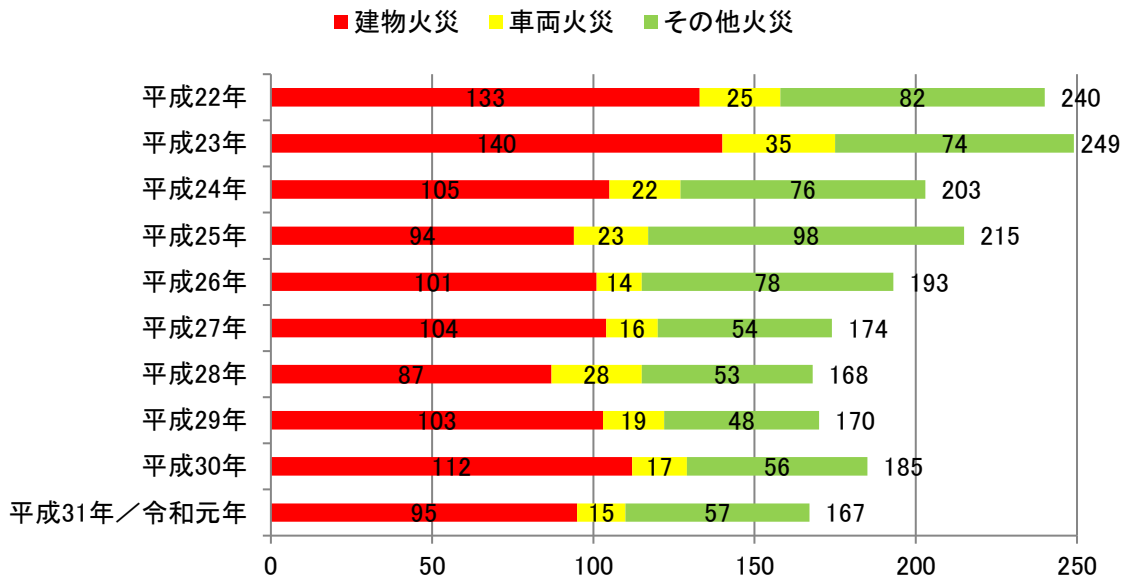
また、救急現場においてバイスタンダー（居合わせた方）による心肺蘇生等が大変重要になります。本消防組合では、救急活動に協力して下さった方に対して感謝の気持ちを込めて「勇気こころのカード」を配布しています。

火災の主な特徴

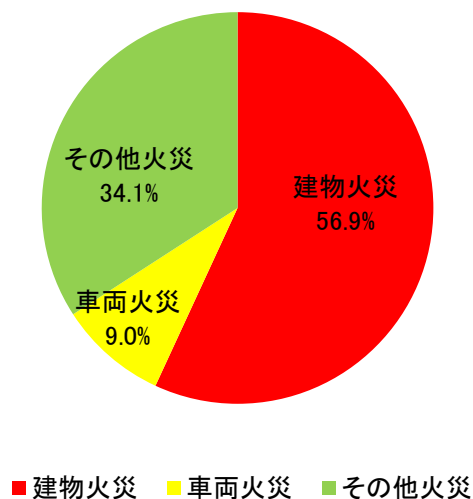
1 火災件数は167件で前年より18件減少

平成31年／令和元年の火災件数は167件（枚方市100件、寝屋川市67件）で、前年（185件）より18件減少しており、過去10年間で最少件数となりました。

火災件数と火災種別の構成比の10年ごとの推移



火災種別の構成比

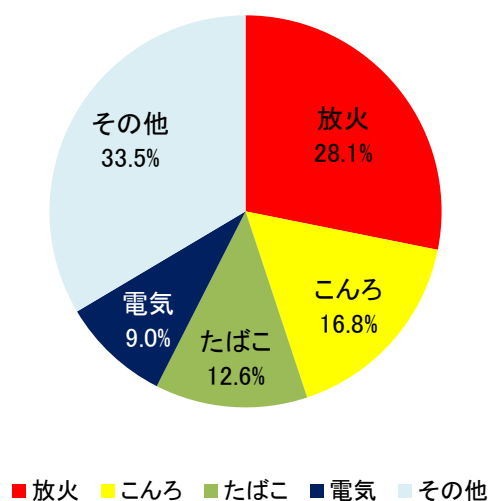


2 出火原因 1位「放火」、2位「こんろ」、3位「たばこ」

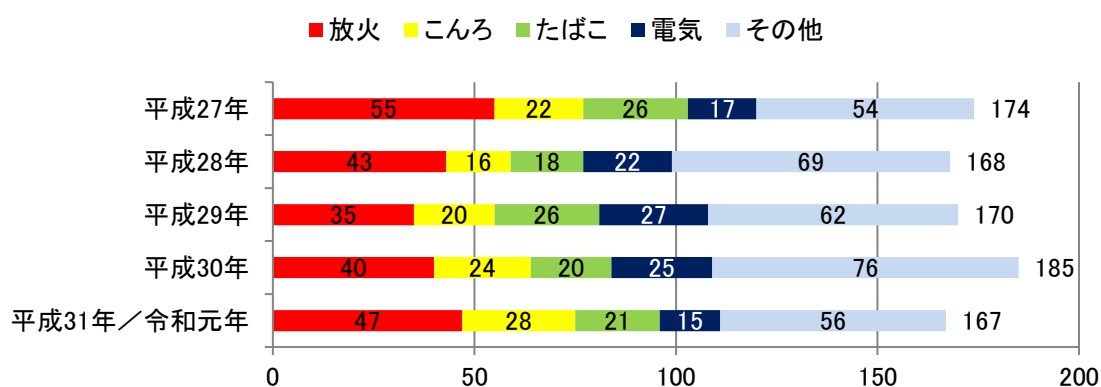
出火原因別に見ると、1位「放火（疑い含む）」47件（28.1%）、2位「こんろ」28件（16.8%）、3位「たばこ」21件（12.6%）、4位「電気関係」15件（9.0%）の順となっています。

「放火」は、21年連続で、出火原因の1位となっています。

主な出火原因の構成比



主な出火原因の構成比の5年ごとの推移



3 火災による死者は5人、負傷者は75人

火災による死者は5人（枚方市2人、寝屋川市3人）で、前年と同数でした。

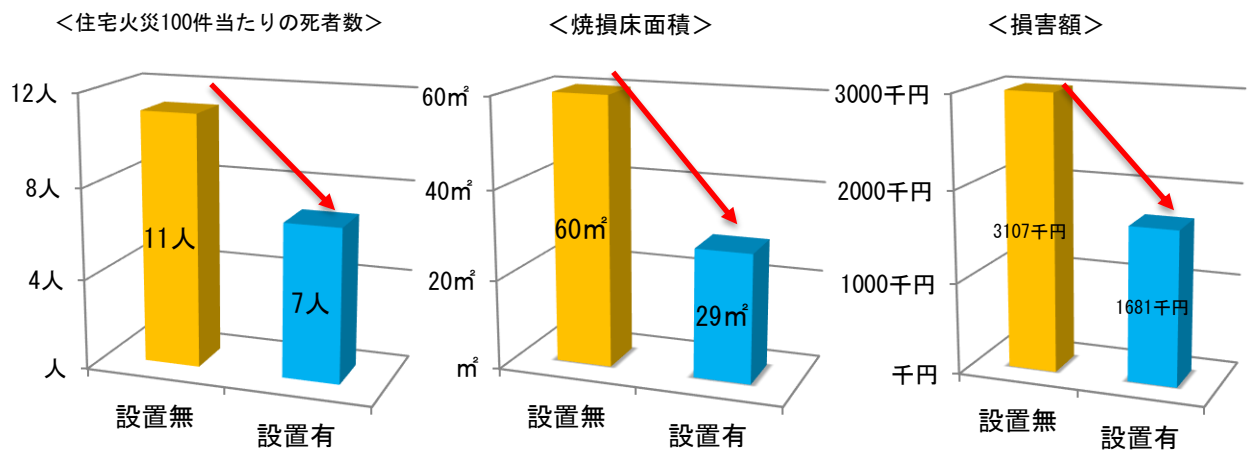
死者5人すべてが65歳以上の高齢者で、うち建物火災によるものが4人でした。

負傷者は75人（枚方市19人、寝屋川市56人）で、前年（45人）より30人増加しています。

4 住宅用火災警報器について

住宅用火災警報器を設置することで火災発生時の死亡リスクや損失の拡大リスクが大幅に減少しています。

【参考】平成28年から平成30年までの3年間に於ける失火を原因とした住宅火災について、住宅用火災警報器の効果进行分析した結果、住宅用火災警報器を設置している場合は死者数が4割減、焼損床面積と損害額が概ね半減したことがわかりました。



住宅火災から命をまもるために、住宅用火災警報器を設置しましょう。

また、いざという時に住宅用火災警報器が正常に作動するよう、定期的に作動確認を行いましょ。

救急の主な特徴

1 救急出動件数、救急搬送人員がともに過去最多

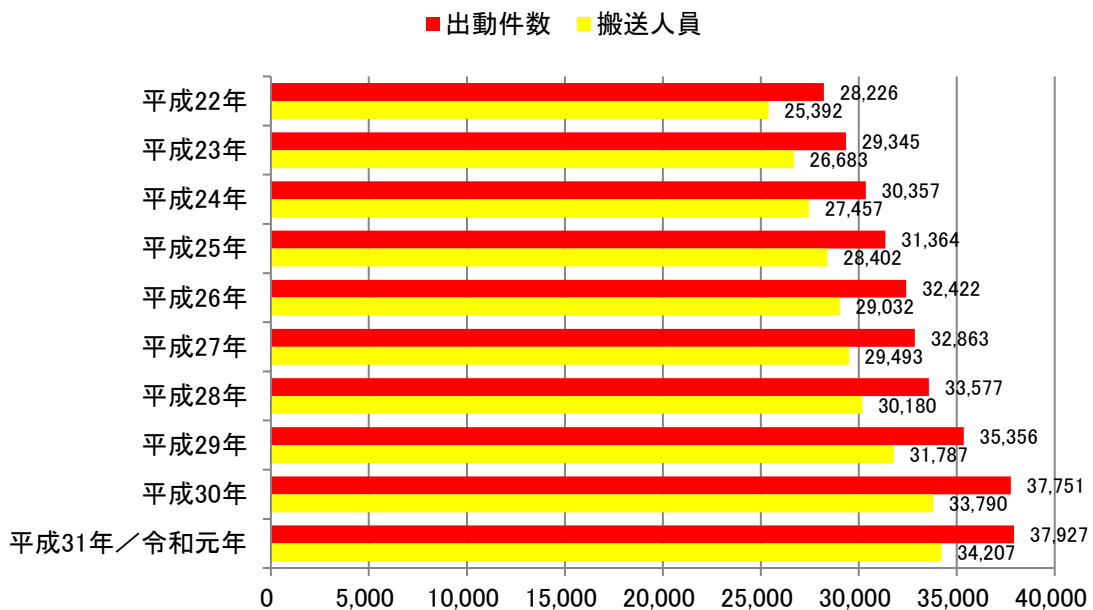
平成31年／令和元年の救急出動件数は37,927件（枚方市22,723件、寝屋川市15,075件、その他129件）で、前年（37,751件）より176件（0.5%）増加し、過去最多となっています。

また、救急搬送人員は34,207人（枚方市20,412人、寝屋川市13,722人、その他73人）で、前年（33,790人）より417人（1.2%）増加し、過去最多となっています。

1日の平均出動件数は約104件で、救急隊1隊あたりの1日の出動件数は約6.1件となっています。

※ その他とは、第二京阪道路、交野市等へ出動した件数です。

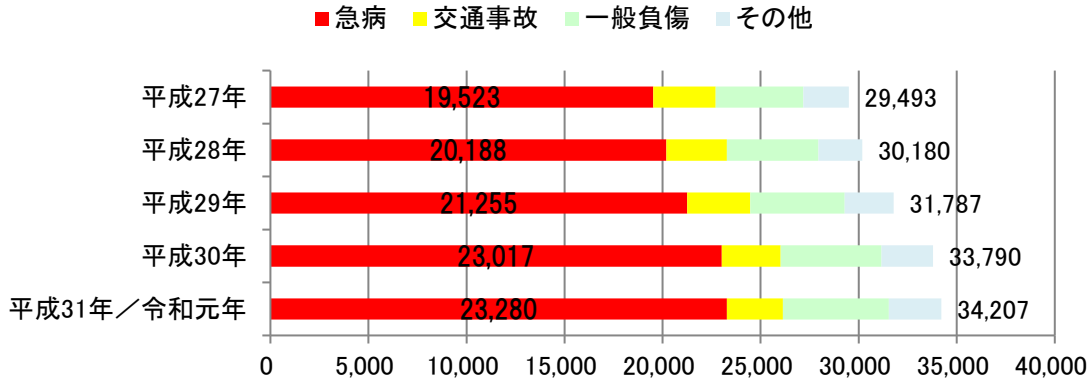
救急出動件数及び搬送人員の10年間の推移



2 事故種別救急搬送 1位「急病」、2位「一般負傷」、3位「交通事故」

事故種別ごとの救急搬送人員は、1位「急病」23,280件（68.1%）、2位「一般負傷」5,395件（15.8%）、3位「交通事故」2,860件（8.4%）の順となっています。

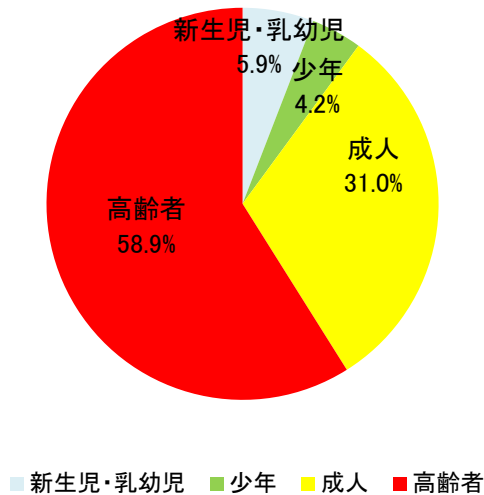
事故種別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



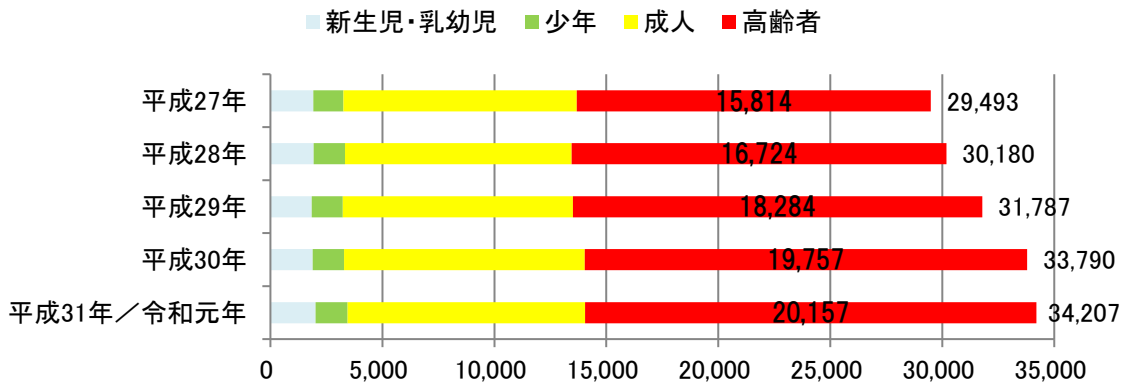
3 救急搬送人員の約6割が65歳以上の高齢者

年齢区分別による搬送人員は、65歳以上の高齢者が20,157人で、全体の約6割を占めています。

年齢区分別の搬送人員の構成比

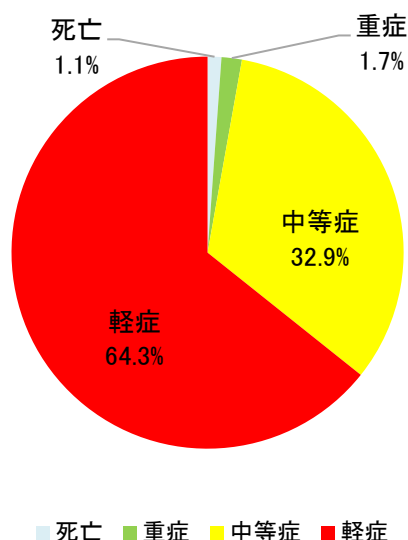


年齢区分別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移

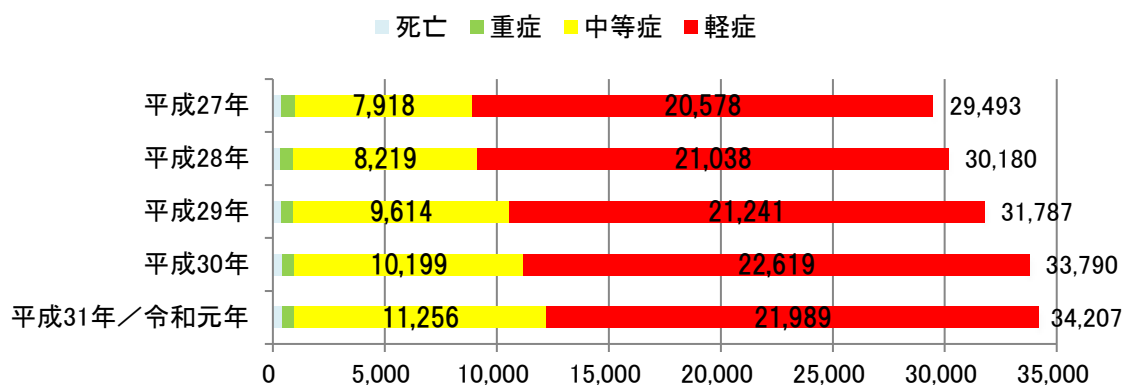


4 救急搬送人員の約6割が軽症者

症度別による搬送人員は、軽症者が21,989人で、全体の約6割を占めています。



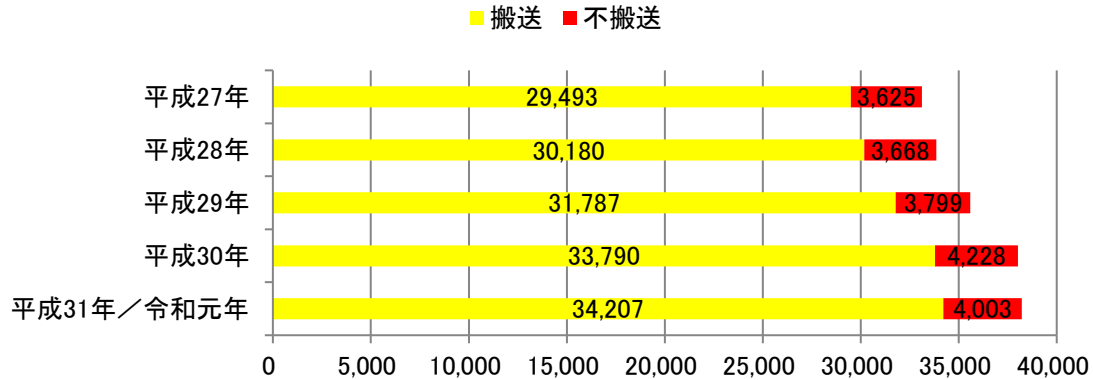
症度別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



5 救急出動全体の約1割は不搬送、そのうち約7割は搬送拒否

不搬送には現場処置、死亡が確認できる状態の場合や医師搬送のための理由もありますが、約7割は救急車で搬送を拒否、誤報、悪戯、酩酊等が占めています。

搬送数と不搬送数の構成比の5年ごとの推移



6 ドクターカー出動件数

平成29年4月から救命率の向上を図るために、医師が救急車に同乗し、救急現場にて医療行為を行うドクターカーを運用しています。(平日の9時～17時まで)

平成31年/令和元年の出動件数は342件(枚方市205件、寝屋川市107件、その他30件)で、1日の平均出動件数は約1.8件となっています。

事故種別では、1位「急病」252件(73.7%)、2位「一般負傷」26件(7.6%)、3位「交通事故」25件ずつ(7.3%)の順となっています。

ドクターカーの出動項目別では、「心肺停止」92件(26.9%)、「急性脳卒中」55件(16.1%)、「高エネルギー外傷(交通事故や高所からの転落)」35件(10.2%)となっています。

※ その他とは、第二京阪道路、交野市等へ出動した件数です。

救助の主な特徴

1 救助事故件数は77件減少（1日平均約0.7件の出動）

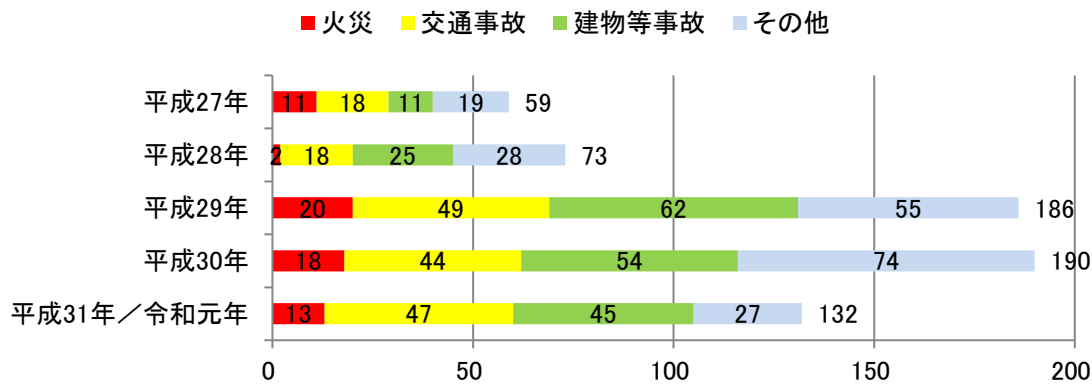
平成31年／令和元年の救助事故件数は259件で、前年（336件）より77件減少しています。

そのうち、救助隊が活動した件数は237件で、前年（316件）より79件減少しています。

2 救助人員は前年と比較して58人の減少

平成31年／令和元年の救助人員は132人で、前年（190人）より58人減少しています。

事故種別の救助人員と構成比の5年ごとの推移



3 事故種別救助事故件数 1位「建物等の事故」、2位「火災」、3位「交通事故」

事故種別ごとの件数は、1位「建物等の事故」61件（23.6%）、2位「火災」56件（21.6%）、3位「交通事故」45件（17.4%）の順となっています。

事故種別の救助出動件数と構成比の5年ごとの推移

